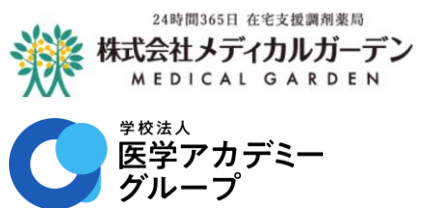


○ 島田顕<sup>1</sup>、杉山祐孝<sup>2</sup>、中村洋明<sup>1</sup>、川崎詩歩<sup>2</sup>、野村大成<sup>1</sup>  
 長濱賢<sup>1</sup>、羽田悠輝<sup>1</sup>、今江賢史<sup>1</sup>、小林弘忠<sup>1</sup>

<sup>1</sup> 株式会社メディカルガーデン ガーデン薬局、<sup>2</sup> 学校法人医学アカデミーグループ YTL

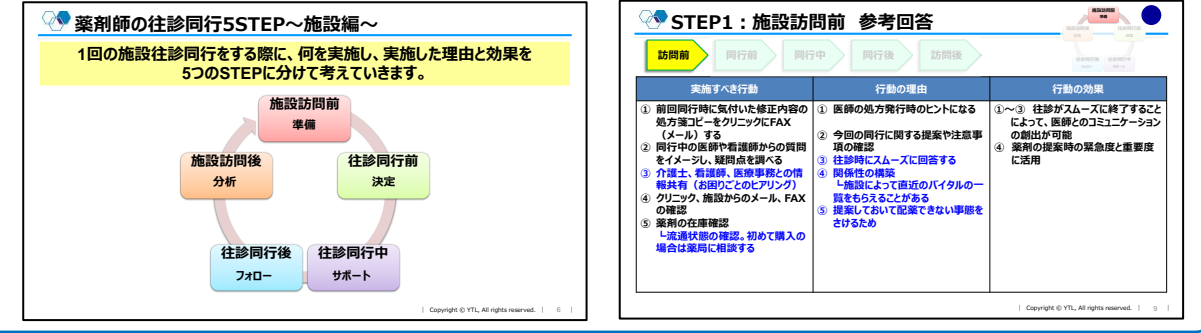


### 【背景・目的】

在宅医療において、他職種から薬剤師に求められていることの理解が乏しく、提案や交渉に至るまでの質の高いコミュニケーションがとれていない。医師や看護師との往診同行では、何をすれば良いのかわからず、医師や看護師からの質問を避ける薬剤師もいる現状がある。往診同行の際、他職種から頼りにされる存在となるために、医師に対する交渉力・提案力の向上（処方変更等を医師へ提案しつつ信頼関係も構築していく）、医師や看護師、介護士などの在宅に関わる医療従事者や施設スタッフとのコミュニケーション能力の醸成を目的に医師や看護師のインタビュー動画を活用し、「薬剤師の往診同行5STEP～施設編～」の研修を実施し、行動変容を研修後アンケートと事後課題にて検証した。

### ◎「薬剤師の往診同行5STEP～施設編～」とは

1回の施設往診同行をする際に、何を実施し、実施した理由と効果を5つのSTEP（施設訪問前・往診同行前・往診同行中・往診同行後・施設訪問後）に分け、医師に対する交渉力・提案力の向上、他職種とのコミュニケーション能力醸成を目的として学校法人医学アカデミーグループYTLと弊社で協働開発したオリジナルの研修



### 【研修会概要・風景・内容・研修使用動画】

研修内容は、薬局やドラッグストア、製薬企業向けにコミュニケーションスキル研修などを実施している学校法人医学アカデミーグループYTLと約1年かけて共同開発。受講者の行動変容を可視化するために、1回目と2回目の研修の間に事後課題として、研修を受けて実際に取り組んだ内容の検証を提出させた。

#### ◎ 研修会概要

スタイル	対面形式
時間	2023年7月23日(土)、9月10日(土):9:00～18:00(8時間)の合計16時間
対象者	在宅業務に従事している、または従事を始めようとしている弊社薬剤師30名(薬剤師歴4年目～27年目)
内容	薬剤師の往診同行5STEP～施設編～
調査方法	研修後アンケートと事後課題
分析項目	アンケートは「研修内容の理解」「仕事に役立つ」を集計・分析した。なお、あてはまる・ややあてはまる・ややあてはまらない・あてはまらない4つの評価段階に分けた 事後課題は1回目の研修終了後、研修を受けて実際に取り組みたい内容(担当患者さんへの処方提案)を提出、2回目の研修1週間前に取り組みたい内容の検証(担当患者さんへの処方提案後の結果と考察)を集計した
講師	学校法人医学アカデミーグループ YTL 杉山 祐孝

#### ◎ 研修会風景



#### ◎ 研修使用動画(医師・看護師・クリニック勤務薬剤師インタビュー)

医師看護師が求める 往診同行薬剤師 弊社薬剤師の 島田について 在宅医療における理想の チームとコミュニケーション 理想の在宅医療 について



#### ◎ 研修会内容

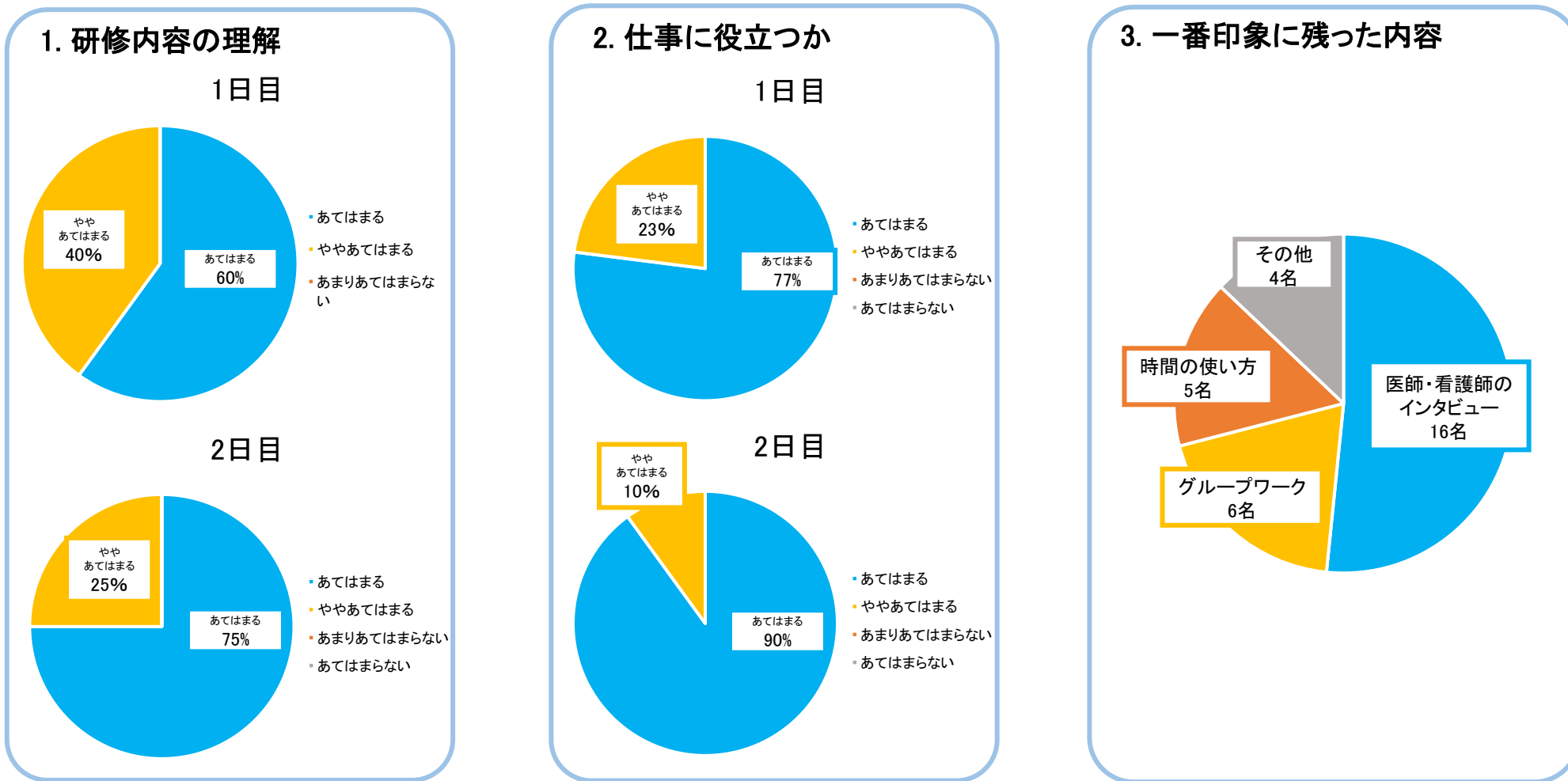
1日目: 医師や看護師のインタビュー動画、5STEPのグループワーク、傾聴スキルのミニトレーニングなどディスカッションとアウトプットを中心に実施

2日目: 1日目の振り返りと事後課題の結果共有、医師のインタビュー、実症例を元にしたケーススタディや5STEPを活用したグループワークを実施

### 【結果】

#### ◎ アンケート結果より \* 研修終了後にWEBアンケートを実施

アンケート結果(「研修内容の理解」「仕事に役立つ」)、2日間ともに全ての受講者があてはまるとややあてはまるを選択した。1日目の「一番印象に残った内容」のコメントでは、医師・看護師のインタビュー動画と回答した方は最も多く半数以上の16名であった。

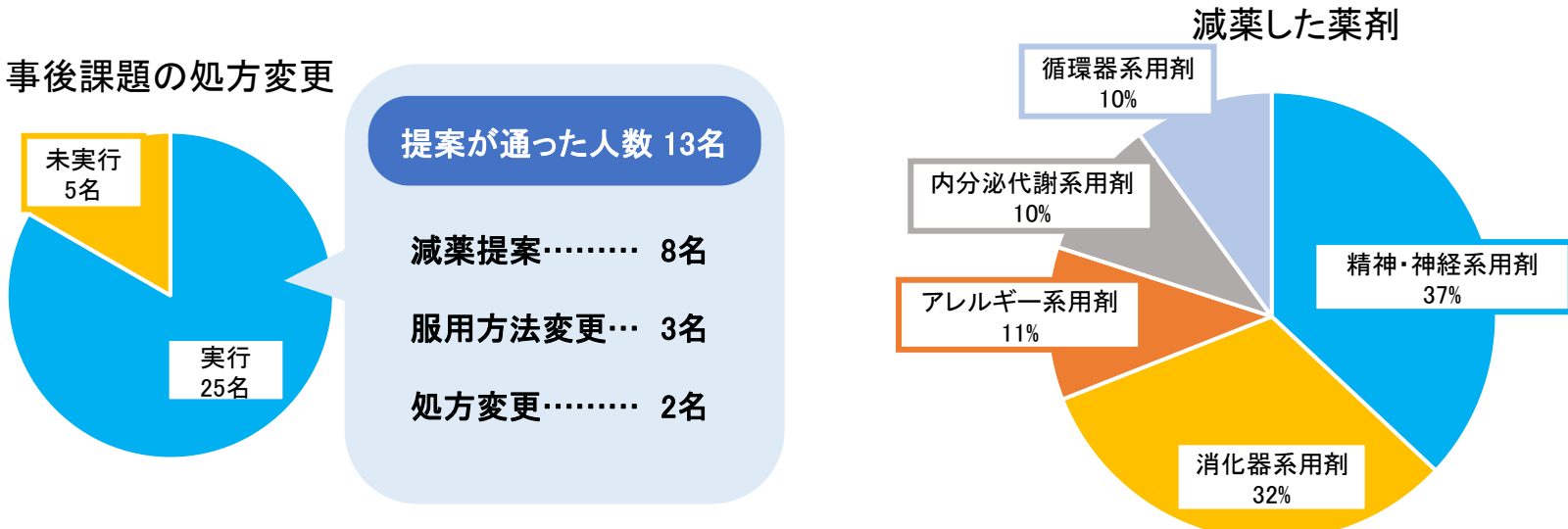


#### アンケートコメント抜粋

- 異なる職種や役割間でのコミュニケーションの重要性です。自分と異なる行動スタイルを持つ人々との効果的なコミュニケーションの尊重や、医師や看護師からのリアルなコメントや要望を通じて、異なる視点を理解し、連携を強化することに関心を示した。
- 実務経験に裏打ちされた5つのステップによる行動内容には、明確な理由と得られる効果が示され、これが理解の基盤となりました。
- ワークが充実しており、実践を通じた学びが深まりました。説明が分かりやすく、実例や前回の研修内容の参考回答があったため、振り返りもしやすい研修でした。

#### ◎ 研修後課題より

担当患者さんに対して仮説を設定し医師含めた他職種への処方提案実行は25名、処方提案が通ったのは13名であった。処方提案が通った13名のうち、減薬8名、服用方法変更3名、処方変更2名であった。



#### 処方提案が通った方のコメント

- 往診時医師のカルテ入力が終わったタイミングで提案をしたことで往診の流れの中でスムーズに話ができた。
- 医師も減薬に対して薬剤を減らしたい意向を確認した。施設スタッフも薬を減らし薬に管理したい、患者も飲む薬が減る方が負担が少ないと聞き取ったタイミングで減薬提案した。
- 事前に施設職員にアレルギー症状の有無について確認し、往診時も症状が見られていないため中止にできたのだと思う。今回は往診時に医師に提案する形になったが、事前にトレーニングレポートを提出しておけばよりスムーズだったと思う。

#### 処方提案が通らなかった方のコメント

- 提案に対して往診同行中ではなく、往診前日までに事前に文書で提案しまた看護師や施設関係者の意向をしっかりと組み込んだ上での提案であれば中止の回答をいただけた可能性があった。

### 【考察】

アンケート結果から、医師をはじめ看護師のインタビュー動画を通じ、他職種の患者への思いや薬剤師に期待することを知ることにより、事後課題である処方提案を実行した受講者が多かったと考えられる。グループワークを多く実施したことにより、個人の経験を全体共有でき、在宅経験が浅い薬剤師のより良い学びの場となった。薬剤師の専門的スキルと今回の研修で実施した傾聴などのコミュニケーションスキルを掛け合わせることが行動変容につながると考えられる。今後の薬剤師には専門的スキルは勿論のこと、更に、コミュニケーションスキル向上を学ぶ研修が提案力・交渉力の向上になり、医師をはじめ他職種に対して、主体的な処方提案の実施につながると考えられる。